

熊本大震災復興支援チャリティコンサート
桜美林大学クワイヤー &
マグダレーナ・デュラン

ポーランドの歌姫を迎えて



曲目

J. S. バッハ《マニフィカート》より
シューベルト《アヴェ・マリア》
フランク《天使のパン》
ショパン歌曲 ほか

出演

ソプラノ：マグダレーナ・デュラン
オルガン、聖歌隊指揮：横山正子
ピアノ：小早川朗子
聖歌隊伴奏：永井幸太

6/15(木)19:00 開演(18:30 開場)

桜美林大学荊冠堂チャペル

入場無料(チャリティにご協力ください)

お問い合わせ：桜美林学園キリスト教センター 042(797)1695



マグダレーナ・デュラン (ソプラノ)

ポーランドのヴロツワフに生まれる。ヴロツワフ音楽大学で学び、さらにドイツのケルン音楽大学で研鑽を積む。オペラの幅広いレパートリーを持ち、モーツァルト「魔笛」、ヘンデル「テセオ」、プッチーニ「修道女アンジェリカ」などに出演、また、リサイタリストとして18世紀から現代までの作品を取り上げている。ヴロツワフ・オペラ劇場、ケルン、アルテンベルク、またエディンバラの教会で歌い、南ウェストファーレン交響楽団との共演もある。2010年11月にはベルリン室内オペラのソリストとして現代オペラの主役を歌った。2008年にはニューヨークのペヒシュタイン・センターでの演奏がTVドキュメンタリー番組で取り上げられ、注目された。最近ではニュー・エディンバラ・オーケストラの独唱者としてマーラーの交響曲第四番を歌っている。



横山 正子 (オルガン・聖歌隊指揮)

学習院大学文学部、洗足学園大学音楽学部オルガン科卒業。ドイツ国立メンデルスゾーン・バルトルディ音楽演劇大学にて単位取得(オルガン演奏、西洋音楽史)。その後ヨーロッパ各地のアカデミーに参加、研鑽を重ねる。帰国後は国内各地、ドイツ、オーストリア、スイス、イタリア、ハンガリー、英国、アメリカ合衆国各地で演奏会を行う。CD「メンデルスゾーン オルガン作品集」は「音楽の友」推薦盤に選ばれた。2011年より1年間、英国エディンバラ大学客員研修員として在英、ジョン・キッチン博士のもとで研鑽を積む。滞在中エディンバラ大学オルガニストをつとめる。現在桜美林大学芸術文化学群教授。桜美林大学オルガニスト、桜美林大学クワイヤー指揮者。



小早川 朗子 (ピアノ)

東京藝術大学附属音楽高校、同大学を経て、同大学大学院修士課程入学。ワルシャワ・ショパンアカデミーの研究生として2年間のポーランド留学の後、復学。修士課程ピアノ科首席卒業、NTTドコモ賞受賞。その後同大学博士課程に在籍し、博士号(音楽)取得。2008~13年に東京藝術大学附属音楽高校非常勤講師を勤める。現在桜美林大学芸術文化学群准教授。ポーランド・アントニンにて留学生のためのショパンピアノトーナメントでグランプリ、特別賞受賞。パリ国際マギンコンクールにて一位、ジャーナリスト賞受賞。大阪・東京、パリでのリサイタルの他に、ワジェンキ公園でのショパンコンサートなどポーランド各地で演奏。また、ポーランド声楽曲にも造詣が深く、楽譜編集に編集者として携わっている。

永井 幸太 (聖歌隊オルガン伴奏) 桜美林大学芸術文化学群を首席で卒業。学業優秀賞受賞。在学中より音楽専修でオルガンを学び、これまでに横山正子、米沢陽子、早島万紀子、通奏低音を山田由希子の各氏に師事。

桜美林大学クワイヤー 2002年4月に大学聖歌隊として発足した。大学の礼拝、入学式、卒業式をはじめとする式典で奉唱するほか、教会や施設での演奏、大学祭や各シーズンのコンサート活動を行う。2003年より、クリスマスシーズンに「メサイア」の演奏会を開催するようになり、そのクオリティの高さは学内のみならず市民の方々からも絶賛されている。2004年から桜美林学園キリスト教センター所属団体となる。2006年より日本各地への演奏旅行を開始し、その歌声は各地で話題を呼び、TVや各メディアで取り上げられた。2009年、CD「帰ろう、わが家に—桜美林大学クワイヤー愛唱歌集」をリリース、大きな感動を呼んだ。2013年度より上杉清仁氏をヴォイストレーナーに迎え、歌声にはさらに磨きがかかった。2014年にはセカンドアルバム「Adeste Fideles—桜美林大学クワイヤー クリスマス聖歌集」をいのちのこぼ社より発売、2015年にはキングレコードCD「わたしの賛美歌」収録に参加した。2016年には日本基督教団「にじのいえを支えるチャリティコンサート」に出演した。